

山川水也

金銀文五号



Yozujo

湖田 加吉、九助



卷頭言

芸術と本能

岩井瑞穂 4

1

郷土の浜松むかしむかし
ア史

トロ

特集記事

ア

水下忠 6

2

舞監になつた日

久米徳敷

13

夜の訪向

編集部

10

あなたはバカではない
私が今思つてゐること
峰岡タダシ 楠 稲夫

南陽政広

13 9・5

小道具雑感

初めての大道具

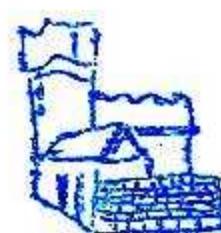
村田雪久

7

切り捨て印免

編集部

15



四

次

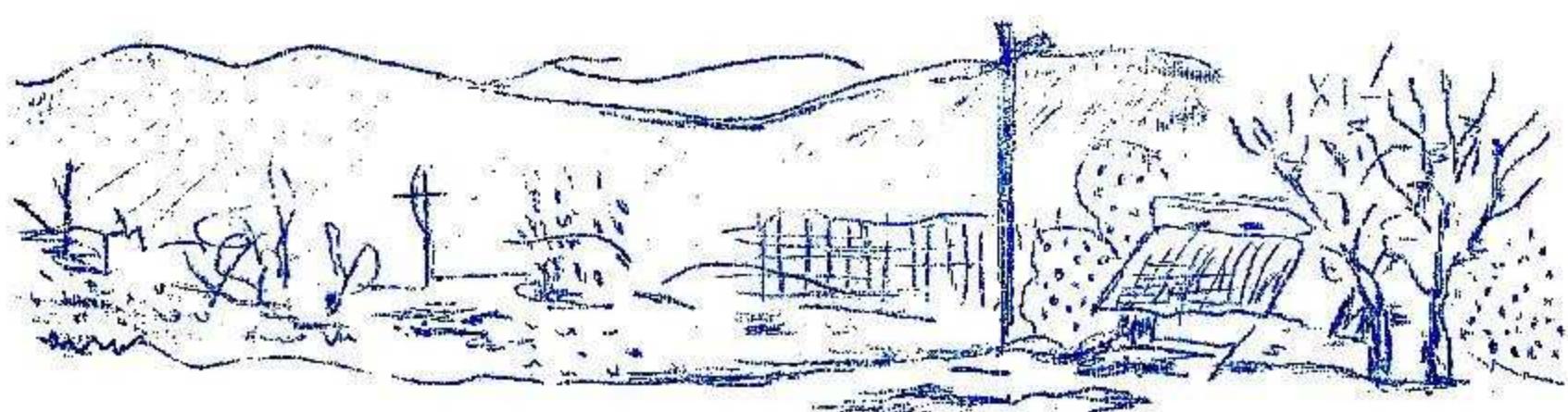


演劇が綜合芸術であるからには、あらゆる芸術が参加し結集されて、そこに美しいものが生れてくる。

舞台装置 舞台照明 舞台に於ける音響効果その他すべてがそれである。そのうえに更に俳優の演技が加わって完成されたものとなり、始めて舞台で表わす事が出来る。演劇活動の成果は、その舞台上での瞬間く、でありそれが私達のすべての力が一つに統一された芸術としてそのアンサンブルのとれた舞台が観客との隔りをなくして観客に溶け込んだ事によつて、そこに私達の演劇創造の喜びがある。

今度の「人斬以臘」の公演に当り、演劇創造に携わつた多くの人々の力の結晶を、農山渓村文化導入運動の一環として、神久呂中学校講堂で公演出来る事は私達劇団員一同の喜びであり、ここに記念して「からつかぜ」第五号を発行出来に幸は望外の幸である。

峰岡タダシ



舞監にはつに日(大寒)

久米徳敷

舞監を引き受けてしまった。「やいやいしまつた」とちよいとした淡い後悔が頭をかすめる。何故かって得手勝手は我慢な性格から予定に組まれにスケジュールの中で自分からはみ出す行動を取るおそれがあるし。縛はにまつたものではないし、演劇を知らない舞監なんて一寸変なものだ——

どっかり腰を下したが最後なかなか腰が上がられないするい年令にもはつた——

そお、お云つてもつまる所こんな舞監をもつた劇団そのものが可愛相なものだ。

しかし出来うるだけの事はしなくてはいけない。そこで皆様方の御協力を御願するわけだ。寒い冬の夜はホケットの中の手足体温を求めて離れようとはしない——肩を丸めて抜歩する骨擦さそして「冬つてこんなに寒いのかはあ！」と白い息を吐き考え込む丁度そんばようは変な気持だと云えば良いだろうか？

日常の生活は僕達の知りなれ間に次から次へと過ぎていく。そして何が残ったかわからぬい部

分が非常に多い。しかしそれらの積み重ねが今
の僕達の僕達の姿で一番現実的であり得るわけ
だ。夏のあつさを冬の期間に論ずるのはむづか
しい。(生々しさと云う意味において)

モニダ三月の公演に対し過去の「以蔵」に
ヒラワレバニ意欲をもやし反省戻を発展的に
成長せしめ新鮮なる氣持で進んで行こうでは
ありませんか。去年の一月十五日三う原の眞ん
中で垂れ下つた雲からじょろぞ浴びせかけられ
て途方にくれた記憶をおもちだしよう。その時
やはりこの形式の桟会で公演をしたわけである
が舞台に立つて感じた演劇に対する僕の意識
が舞台に立つて感じた演劇に対する僕の意識
研究 照明の条件 効果の雰囲気 ——
——公演に結集される情熱脚本の分析 装置の2—
術の最も進んだものだと 例えば野球の九名を
中心としたチームワークが近年益々重要視され
てくる様に各人の分野に広いて現在かかへてい
るいろいろの問題を投げかけ 話し合いで通じ
て少しずつざも理解していく事がサクフルヒシ
ては当面必要な態度である。これが非常に効果
的に發揮される素地が劇団と云う形式に一番適
していけると思します。勿論前に云つたように
芸術と云う名においてもこれは欠く事の不可欠
な物なのです。

次に新劇と云う立場を考えてみるとこれは仲

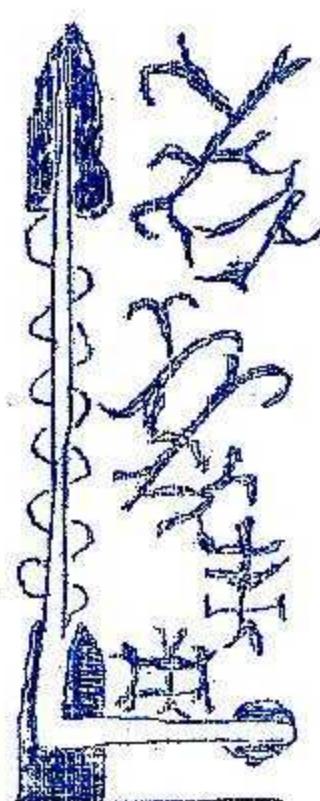
々難しく解決は出来そうもない。だけど一口にいって現実を直視する態度をもつと明確に出す必要がある。つまり演劇といえは歌舞伎があり新派あり オペラがあり いろいろある。この中で新劇はやはり概念的には受け取める事が出来るがいざこれを説明する筋の通った理解はまだ僕には出来ない。そこで誰でも出来る新劇が多くの人達に知られておらぬい矣はどこにあるか。大變の中に廻み込む行動を得たいが爲に新制作座の公演を行はうだらう 勉強して行きにいと思つてゐる。中途半端にはつにかも知れぬがねむくなつたのでやめにする。次にスターフ モヤストのう々は底冷えのする二月から若芽の匂とほころびる笑の三月にかけて一生懸命やつて下さい。

舞監のありうは最少限の位置においてつつぱはく果して行きにいと思つておりますから 悪からず御諒承下さい。「するいぞとあまり云つて下さるは」「僕達は演劇を好きだからこうしてやつてしているんだ」と云える位演劇を知り 演劇マニアになる事がからつかぜのよりよき文化団体として発達していく事業であるだろうから。

昨年より特に活潑化されてきた農山漁村文化導入運動は今年も年度末にはリ二ヶ所で上演される事に成りました。次に上演される場所日時等を記しておこう。

一、劇団たけのこ 合同公演 「みちづれ」一幕	二、本田技研演劇部 「川上観音」一幕
劇団ひくまの 場所 北茨中学校講堂	劇団からつかぜ 場所 神久呂中学校講堂
日時 三月十五日 日旺日 午后一時	日時 三月二十二日 日旺日 午后一時

尚劇私達劇団からつかぜは 津北町労働者協議会より招かれて 三月二十一日に北茨中学校講堂において「人斬り以藏」二幕三



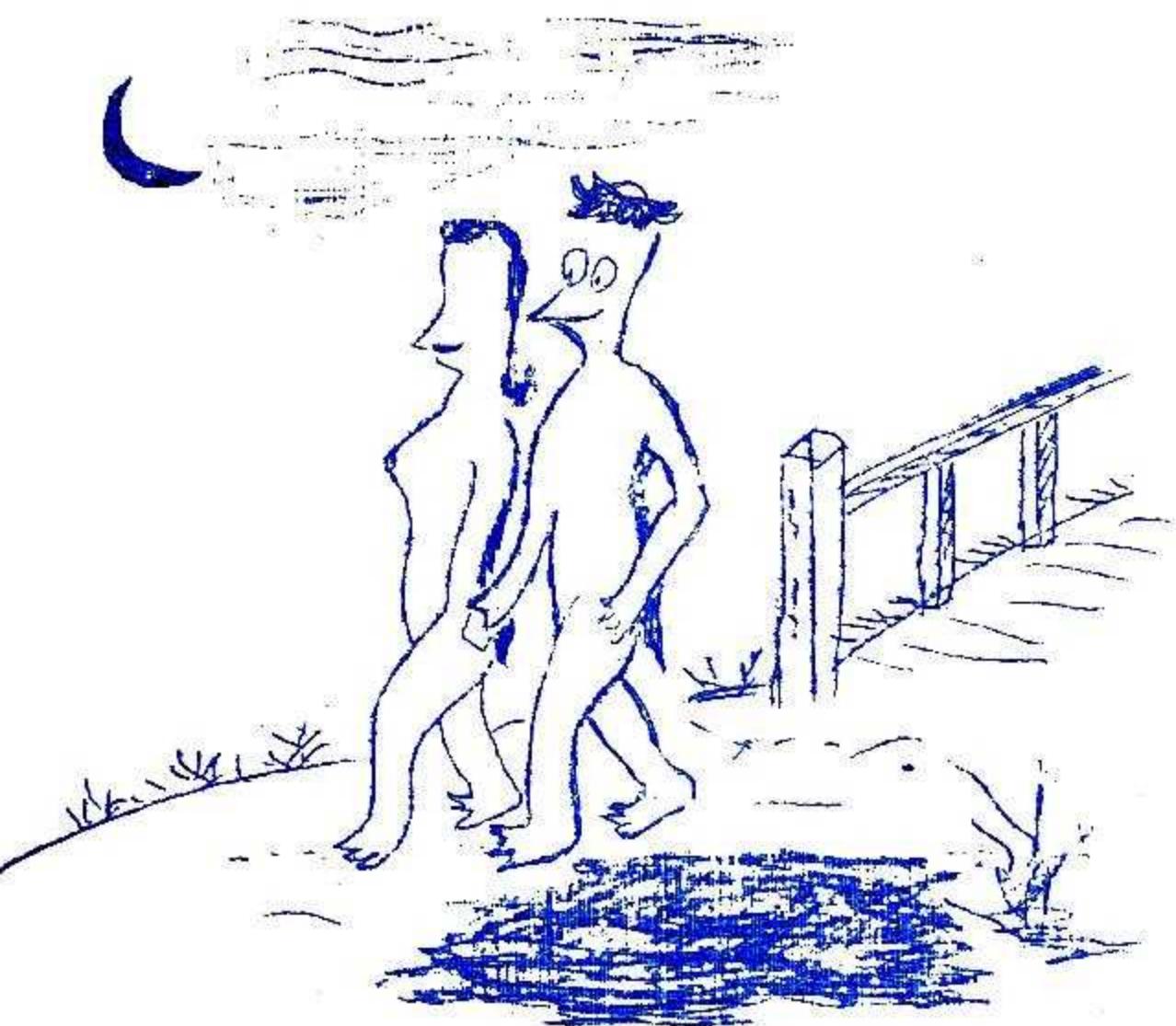
遠州地方の演劇展望

人間の條件という映画があつた。私は殘念ながら見られなかつたけれどもこの人間の條件とは何か。私達はいくつも人間であつても動物であるとして動物あるが故に本能を持ち合ひてゐる。人間の本能といふものははにして満たされる物であるが、ある時は本能の爲にとんでもない事を仕出しかねる。私達はこの本能といふ奴をどうしたら良いだろうか、まかり間違えは罪悪にもなる。そしてこの上もない芸術にもなりかねるものだと思う。

私達は本能を芸術の上に生かしていくたゞんなく晴らしい物が出来上がるが分らない。何故ならば人間の本能を可能せしめる事はその人間にとつてこの上もない感動を与えるからだ。この上もない感動とは、人間の本能に合致した場合だけのみ存り得るものと考える。

私達の生きている現代に於て、本能ははにして正常に司されてゐるだろうが、これが現代のモラルだと何とか云つて無視されている事はない。どうか人间の清い本能を汚れた物にぶつけてはいないにろうか、と共に藝術の道を求める人間があまりに少ないことに心づれだけならば良いのであるが全々この崇高な藝術に近がよつて見ようともしないで唯ひ

その美しさこそ人間のいくつかもつてゐる本能の一つを満足させた事になるのではないか。そして簡単に本能を達した比びよりも十倍も万倍も満ちたりに比びに胸が高なる事であろう。私達はこの胸の高鳴りをおこえる事のできない事が来る事を待つのである。それは苦しい事かも知れない。そしてある時は寂しいかも知れない。又ある時はたえがたい困難にぶつかるかも知れない。しかし未来を見つめて生きよう。何の憶測もせず精一杯やるだけだ。さあやろうあの日の来る迄 そうちもうそこに乗くるよけれども藝術に身を投する事も人間の本能なのだ。



あなたは馬鹿でない

橘 雅夫(内祭)

雅夫(內祭)

俺自身しか、たよりになるものはない。俺の中には表現して、貴様らを説得してみせてやる。大体人間なんて奴は単純な一つの動物だと思つていれば、誰が何を云ふうと、誰が何をしようが勝手だ、しかし一つだけ大切な事は順序を間違えてはならないのだ。一步踏み込んだらそれを成し遂げるのが眞の人向でもある。しかしそれはほんの一歩的な存在だ。ましてやそこには矛盾が生ずるだろう。眞の人向の好さ、悪さなにしたてものはサミ眷の立場から眺めてもハッキリした。ソリタはそれないのである。俺は云いたい。己が馬鹿になつたつもりで人を説得せよ！よく解し、又利害を得る。自分が馬鹿になつた時に、極少のレジスタンスの生ずる事も不可能だ。ましてやそれがこうだ。とか、あゝなるだ。なぜと争つてそころでどうにもならぬだろう。変な意味の分らぬ様なり。ズンばかりこねまわす奴は、人間味のない動物的存在としか思えない。果して自分はこれに属さないと云い切る自信はないのである。ほゞならそれを成し

遂げる力もなければ心も研磨されていない。いやそれよりもまだある。それを云い出す前に、

何故自分が人間としての存在に認識しないので

あろう。それらを追求してこそ初めて自分は馬鹿に成り得る事が出来る。ここで又矛盾が生ずる——。手段はいくらでもあろう。選ばうと思えば簡単だが考え方によつては選ぶ必要がないからだ。手當だらけのインテリゲンチヤの寄り集つた中での仕事は楽しい。それを人間の大半とは馬鹿らしいと思い、つまらぬと考え、出来ることないだと云うに決つてゐる。いわゆるまともな人間である以上自分と云う武器を持つている、持つてゐる以上それを馬鹿げてゐると思つうのが当然だ。しかし道は一つではない。少し振りをしている奴こそ眞の人間性の富んだ人間に成るのは不思議だ」と云つても決して過言ではないであろう。成せば成る底ざねば成らぬの短評に頗る個性を生み出して進んで行くのバカの人間なのである。だからと云う點では自身にたよることを含めて自分を馬鹿にしてみ給え！ あと俺も馬鹿になりたい。

浜松をかしむかし その三

木下 忠

「凡三十年の小飢、五十年の大飢」とか近ければ三、四十年、遠くとも五六十年の内には乗るおもうべし」とかいう言葉が徳川時代にはいはれていました。飢饉は慢性的でおまけに大きな飢饉か周期的にやつてきました。東北地方ほどでは人肉相食むというような惨状を呈していました。この地方でも飢饉がなかつたわけではありません。この藩の飢饉のはありました。天保七年の掛川藩の飢饉の時のお触れを書いてみましょう。天保七八年は二度も三度も大風がきて、ここら一帯は大変な二度も三度も大風害におそれました。そこで掛川藩では飢饉対策として次のような告示を出しました。松の皮を食べば飢を助かるのみならず瘦弱(タバコ)にならしむ諸薬食物差支へなし。

木(→)松皮は雄松雌松若松何れもよし、雄松の左の荒皮は至つてよろし鎌などにて削り取るべし。(→)あら皮瓦礫に入れ杵にて搗けばもろく碎く自身にたよることを含めて自分を馬鹿にしてみるなり、それをひきうすにてひきすみのふにてふるい粉にするなり。

(→)右粉を蓋あよく合たる釜か鍋に水多く入れ

34年 1月 28日

何とかして幕面の二十介の時間を短縮するためにも又観客、キヤストも興醒めさせぬためにも装置を簡単にしなければどうゆうわけで考えたのが装置の一杯化と簡素化することだった。

まず今まで家屋と庭と舞台玄ニツにしていたのを家屋も庭も一緒ににしてしまい台所も重みのあるもの余分なものは全部とつてしまつた。又運送にそして舞台組立に軽くやりやすくする為に前々から念願だった布張にした。その結果は立ててみないとわからぬがおそらく軽くつて作りやすい装置になると思う。これも皆ヨーサンの仕込みで我々素人にはもつてこいの先生だ。しかしヨーサンにいつまでもたよりになつてゐるようでは甚だ困る、先生が出てしまつたらいつたい誰が後をやるのだろうか。その鳥にも若い人達で二人ぐらゐ着色できるのがいてさて横道にそれに入ろう。

芸術祭から見て大きく変化したのは、ますなんといつても台所だろう。ノレンが前に出ていたのが、後にいくし下手によつていたのがほゞ中央に来てしまつたり以前から見ると軽い台所にはとつてしまつたり以前から見ると軽い台所には全体の均整がとれ、しかもすきりしたことは

たしかだ。尚井戸は省略してしまい庭を広く使ひるようとした。芸術祭では一幕目で邪魔になつたとゆう柿の木はこんどは座敷の正面よりやすすこし下手によつた所におきキヤストが常に円滑に動きの出来るような場所におくことにした。

さて柿の実を作るには少々苦労した。この間の時には新聞をまるめて、その上に紙玄はりつけていっただのだが、どうもでこぼこになつてしまふまく、まるみ玄だすことことが出来ないのでこんどは摺鉢に新聞紙を水にしめしたものを入れよく摺つてその中に糊を混せて作つたのだがその後が大変だ、まるまる二日前と全々変りがないうちおいたにかかわらず二日前と全々変りがないうちにかかわらないのだ。ついには火をあこし焼芋ならぬ焼柿を作ることになり思わず苦笑い！！！これから何日たつたらかわくのかと

思うと、どうも気が重い。とにかく装置玄やつているといろいろおもしろいことにぶつかるものが、まだ／＼日が浅いので今の所五里霧中とゆう所かな。

現在の気持はこの芝居をただく成功させた

だけ！

皆さんのお協力お願いします。

私が今思つてゐること

峰 岡 タタシ

あかり屋さんはいつも孤独である。と決めてしまう事はいけないかも知れないと活動を始めます。でもやりがいのある実に活動的な部問でもあります。だから私達はあかり屋さんを誇としています。実際に活動を始めてみると多くの困難な問題があります。実際に活動に必要な用具が何もないと云つてもいい程の現状です。その中に在て「人斬り以藏」と云う偉大なるレパートリイに取り組んでいるあかり屋さんの姿を御想像下さい。ボーダー・ヤ配電盤が整つた事はこの上もない喜びではあります。これだけで十分な舞臺照明の効果は望めません。市の設備としてベビースポットやストリッフ・ライドーがあり大変役立っています。でも舞臺照明の技術的な力を十分に發揮出来る段階にはまだく遠いようです。まず最低限度の必需なる器具が揃つてからの事であって、それからの事は夫々の持ち味を生かしていくべき技術的なものが加わって最大の効果をもたらすのだと思う。一応舞臺照明を担当したからには最善の努力は払うべきである。そうする事は当然外部より必要な力しているのです。

収集を怠めなければならぬ。とは云うものの会社があるわけではなし、そういう所から借りると云う事は考えられない。仮りにあつたとしても借りてはくれないだろう。高校の演劇部の中には一応収集の痕つている学校があるが学校の備品にはつていてからと云つて体よく断わられる。貸出元はのである。だから結局外部よりの借与は、そうしほければならないにもかかわらず、不可能である事が現状である。結論は他の事を当にしないで、自我のもの自分一人達の中で満たすべき、最大の努力をしなくてはならぬ。演劇を公演する為のあらゆる設備の充備した劇場の設立をまず望まなければいけない。アマチュア劇団についてもプロ劇団につけてもそれは共通した願いであると思ふ。公立劇場の設立はそう云う願のあらわれであります。アマチュア劇団についても、劇場が出来れば、それに順じて県立市立の演劇専門の劇場が出来れば大変嬉しい事です。しかし今度の農山漁村文化導入運動として演劇を公演する場合に在ては、劇場の必要ります。演劇を観てもらう事であつて、設備不完全なる所へ行つても、その最大の効果を出す事が肝要である。私達は不十分な設備で、最大の効果を出す様に夜夜努めています。

花の内(1)

訪問者

棚橋信昭

吉田勝海

司会 峰岡タタシ



二月二十五日午後 ヨク茶店にて、仕事に多忙な棚橋信昭氏にお暇をいただき、丁度居合せていた吉田勝海氏を交えて、劇団からつかせの現状又そのありえについてさっくばらんにいろいろ話をしてもらいました。

峰岡「今日はお忙しいところをどうも。早速ですがエビ(吉田)さん 現在どの様な考え方をお持ちですか。

吉田「僕としてはみんなが考えているように転じていいにらしいと思うね。

峰岡「最近の傾向としては サークル的な番つままりのりを兼ねていても芝居のためといふよりも、のりを兼ねながらおしゃべりして、楽しんでいるという傾向のうがつよくて、演劇そのものの技術的な面でも情熱的な面でも導かれているよう思うんだけれど――」

吉田「僕の考え方では 昨日も青猫さん(劇団青い猫)の所へいつて話をしたんだけど いろ

いろな自立劇団があつて人々の特徴をのはしてみんな発展していくがそういうふうにはらはくちあいはないと思う。その為にはからつかせは現状から考えてサークル的なものを墓盤にして つまり人と人の振れ合いを大事にしてそのままの上にどんな花が咲くかわからぬいとがいろいろ花を咲かせると云う手法が多いと思ふ。その為には素人劇団としての素人喰さを大事にして、どんな人でも入ってこれるという事を特色にしていくべきだと思う。

峰岡「棚(棚橋)さん どうですか

棚橋「そりやそうだね その手法もいいけど問題は運営だネ 素人劇団としての問口が広一

がれば広くなる程運営が困難にはなるんじや

ないかな

吉田「そうだ確かにそうだ そうすると二つの矛盾が生れてくる。一つは人と人とが一諸に活動をしたり リクレーシヨン等を行う事によつてお互にぶれ合つて いるといふ面とも う一つは劇団として演劇の技術をどうだん積み重ねていつてより高度なものにしていくものとの技術的な面でも情熱的な面でも導かれているよう思うんだけれど――」

吉田「僕の考え方では 昨日も青猫さん(劇団青い猫)の所へいつて話をしたんだけど いろ

櫛橋「そりやそうだ 僕も心配にはるのはそれだけだ

峰岡「そりは、に場合 むづかしい脚本をとり

あげるのは困難にはつてくるんじやないの

吉田「それをもう少し具体的に云うと どうい

う事かな

峰岡「技術的に高度な芝居がやればくびつくるでしょ 例えは装置とか照明とか効果なん

ていうのは、それ自体その脚本では省略でき

ないよ うなものだ

吉田「それは単に細かい技術的なものの積み重

ねで出来ると想う。例えは今までスライダッ

クを今まで一台二台でやつていにものが七台

も八台も要るようなナリをやるようにはると

いうことにはると、これは時間をかけ金をか

けざ元すれば 二年位たてば段々に出来るよ

うにはると思う。演技についても 難かしい

といわれていてる例えは「桜の園」はんかとつ

ても難しいと云う事の第一は先づ時代が違う

。国が違うとしことの難かしい、これはど

んな事でも解決されないよ うもんだし、又

以藏（へんざう）へんかも考え方によつては

とても出来そうにはない程難かしいんじやないか？ 又、村の保守党（ほしゅとう）でも微妙な喜

劇として仕上げようとしたとしても難かしい喜

という事にはるんじやないかは

櫛橋「そりには脚本内部のとり上げ方。ポイン

トのつかみ方だな。そうなりあ人間関係が描

かれている脚本なら易しい脚本なんてはいわ

は

峰岡「だけどサークル的にはつくると 何も

知らない人が入つて未だ場合には統一が欠け

るんじやはれ？

吉田「その奥でね

よく聞いてもらいたいにいのは

演劇を好ききらいと云う事はないと思うね

大体太古の時代に人々が狩から帰つて男も

女も一諸になつてトキの声を上げて祝つてそ

して踊る。本当は演劇の発生のもとはここからあるんだぜ。こうなりや好きもきらいも

ないじ思うね

峰岡「そうね 広い意味から云えばネ

吉田「現在芝居が好ききらいと云うのも今まで

ある形の演劇が好ききらい 又一度も見に事

もばくく 漢然と芝居が嫌いヒ云う人も決山

ある訳だ。

峰岡「そうですネ そういう人達には是非芝居

を観てもらつて 広く演劇と云うものに接し

てくれる事を望みますネ。どうですかこの辺

にして まだこの話はずい分長くなりどうで

す 今日はこの辺で！ ごくろう様でした

人斬り以藏

スタッフ
製作
舞台監督
演出
美装
置出
明術
照
衣具
道具
小効
衣
手使
中村正興
伊藤陽造
和田幸平
久米徳乾
佐倉忠夫
山川喬子
吉田勝海
森本律子
鈴木つねを
本田美佐子
鈴木久美子
磯部
川中王枝
南陽政広
棚橋和美
岩崎敬子
大村六郎
砂子鉄夫
山本康之
田中敏夫
富永佳珠子
高田以藏
妹百世
佐川楠馬
植渡清吾
門奈壯明
新村正男
石川達美
富田綽男
吉村録十郎
磯矢楠馬
キヤヌト

幕末、文久三年（一八六三年）秋、士佐の高知城下に住む藩士岡田以藏なる青年の身の上に起つた事件である。

当時の社会状勢は三百年の权力を握つたさしもの徳川幕府も崩壊寸前まで弱体化してゐた。天皇は政治权力は全くなく、幕府の思うようになつてゐた。この為次代の政权をめぐつて、勤王党、佐幕党、公武合体派が各地に入り乱れて一相争つた物状騒然たる時代で、坂本竜馬、近藤勇、武市半平太、西郷隆盛、勝海舟、桂小五郎、久坂玄瑞（物語では鞍馬天狗、月形半平太）等が盛んに活躍した。

猫の目の如く党派の勢力範囲が變る、御多聞にもれず九月十八日の変によつて、遂に以藏も半平太も、その他多くの勤王党的大物小物が殺されたり、捕われたりした。以藏は幕府方会津藩にわたされたが、「知らぬ存せぬ」で押し通し、又士佐藩としても後難をおそれて彼を無宿者としてしまつたので、やつと牢屋を出る事が出来た。暖かく迎えてくれると思つた同志にはそつぽを向かれ、仕方なく土佐に歸つたが無宿者にされてしまつたので登城も出来ない。了未だ事の馬鹿馬鹿しさが胸に来る。

小道具箱感

南陽政広

『人斬り以蔵』のレパートリーで私は始めて小道具をおくせつけられた。

『小道具なんて、脚本に指定されているものまで備えて舞台の上に並べれば良いんだ』——私は、小道具に対する最初こんなふうに考えていた。しかし實際には、時代考証、彼の個性、家庭環境、風俗等を考慮しさらには、場毎の小道具の有無を考えねばならなかつた。

脚本に指定されているものに対しては、時代考証云々を考えておこなえば、それらをそろえるには、あまり困難をきたさない。しかし、脚本に指定されていないものをそろえるとなると、大きくは脚本の中味をより一層理解出来るよう力バーする意味にはきて来る。そこで場毎にどのような『小道具』がに配置したらそれらの小道具が最大限に役割を果す事が出来るかを考慮せねばならない。(これらに於ても、もちろん時代考証云々を考えねばならぬ)

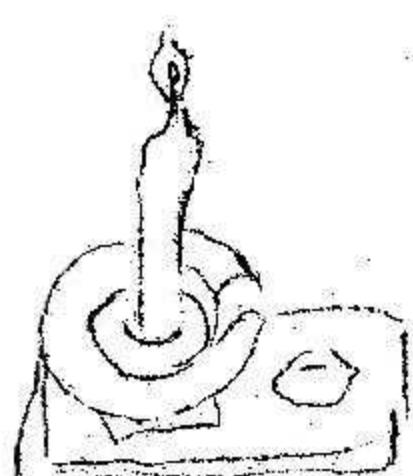
脚本指定以外に、どのような小道具をそろえるかを考えると同時に問題になるのは、その数である。もし指定外のものを数多く置い場合にそれらのものと比べて役者、演出その他の者がそれらを把握出来るだろうか? 私はこの向

に対し「ハ」と答える。この問題については、プロに於てもアマに於ても云える事ではないだろうか。

技術的な面からも、他の部門との関係からも考えても小道具は出来る限り数少くして、それと他の関係とのバランスをとつて、それを把握する事が必要であろう。

が、しかし私が小道具係としてそれらの事をしたかと云われる、残念ながら『う』ではない。小道具を出来る限り少くする」と関連して問題になつて来るのは、芝居に使われる小道具の一範囲がある。——『小道具の範囲はどこからどこまでである』と私は云えない。と云うよりも解らないのである。

作る事——実に楽しいものである。刀、箱膳、指揮、花むしろ筆々大学教授に歴史的には事に向う、辞書で語源を知らべる、それを基にしていろ——考る——そして苦労して作る。小道具に於て裏方の良さを新めて知られた



切り捨て印記(その三)

富田綽夫

編集部

彼が目を輝かせる時は麻雀を始める時ぐら
いである。それ以外に彼の情熱を燃え立た
せるものは無いと云う話だ。いつも面白い

のが面白くないのか判らないような顔をし
ている。しかし彼がお酒を飲むところを見
た。争があるが、隣分姫しそうな顔をしてい
た。だから年は若いが、遊が事文は大好き
だと云う事になる。仕事の関係で普通の日
は思いつつ遊びないため、土曜日の晩と
日曜日が来るのをいつも待っていると云う。

鴨藤一枝

彼女を「カマトウさん」と呼ぶ人がある。
その時彼女は即座に「カモトウ」と訂正を
要求する。万事がこのゆうに言葉使いの嚴
密な人である。からつかせの中で本当に女
性らしい正確な標準語をしゃべる唯一人の
存在でもある。筆の立つ事も有名で、字が
旨いために、一緒に映画へ行ってくれなく
ても良いが、せめてラグレタトだけは頑き

棚橋和美

たいと云う若い男性が居る程である。東京
スタイルで玄忠寺に現われ、電車の時間を作
氣にし乍ら八時過ぎになると妖しい零用金
を作つてさつと帰宅する処はあざやかである。
だから、裝置のよう仕事には向かない
と云う難点がある。

新村正男

からつかせ、きっと焼酎党である。経済学
部に学び乍ら恐ろしく経済観念の無い男で
ある。わざわざ高い授業料を拂つて学校へ
行かない、と云う調子である。麻雀で徹夜

洋裁と料理が非常に旨いと云う話だ。全く
ノーマルな家庭の娘さんではある。この話を
聞いて金の無い連中が、仕立物を頼んで
リ、彼女の家に押掛けて御馳走になつたり一
して、彼女の家に押掛けて御馳走になつたり一
外ズボラな処がある。或る晩足の裏を床に一
こすりつけて部屋に入つて来た事がある。
皆が不思議な歩き方をするものだと見てい
たら、彼女は「足の裏が汚たなかつたから
綺麗にした」とすまして答えた。三味線と
云う優雅な余技を持っている。

心あたたまる演劇

泥かがら

した事は教え切れない程あるが、勉強で徹夜する事はメタタがない。こう云う凡に書くとからつかせはとんでもない不良学生をかかえていると思われるが、彼のシン底は眞面目である。彼はそう云う眞面目さつた自分を外に出すのがテレ臭いのである。何とかして「自分をグウタラな男である」と人に見せたいために、猥談に熱中する。筆者も本興寺の合宿の時、彼と一緒に寝て、一晩中寂かされなかつた事を記憶している。シワカリした男である。

新制作座の浜松に於ける一般公演は、昨年五月野薙凡の中を走るの公演について、二度目ですが、浜松附近では、この“泥かがら”と“青春”が数多く公演されています。

ものがたり
昔々泥かがらとアダナされた、大変顔のみにくい少女がいました。あまりのみにくさに、人々から石を投げられたり唾をはきかけられたりして、すっかり心が荒れすぎんでいたしました。——今日も——トで生きて来た男。シャンソンを唄わせる

と素晴しく皆うつとりとして聞きに入るこ

としばしばあり。酒は大好きでその酔いつ

ぱりも中々大したもの、どううける口

らしい願わくば春吉よ、酒がなくとも青

そしてスバラシイ演出を——

胸を張つて、太陽に向かつて進め。

田中敏夫

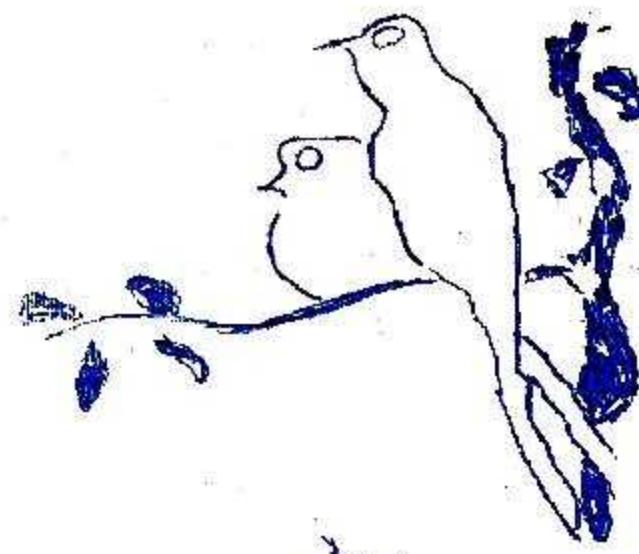
通称春さん、可めで来た人にはどうしても春吉が本名だと思われる。田中敏夫とゆうれつきとした本名がある。さて、彼はからつかぜに入つてからずつとキヤス

トで生きて来た男。シャンソンを唄わせる

とき：三月十七日(火) 一三。(三回)
ところ：浜松市公会堂

前売券 一般 一六。一(当日一八。一)
学生 九。一(毎日一一。一)

原稿募集集



お知らせ

☆三月二十一日二十二日と連続二日の公演で相当強行なる活動状態になると思うが、みんな万難を排して一致協力して三月一日より活発なる活動をして戴きたい。いろいろと各人の事情はあると思うが、当面の問題としてまず以蔵の完成を三月十五日迄と目標にして張り切って下さい。

—舞監—

毎日の生活中には、何かしら心に残るものがあると思う。そして更に自分の考え方と云うものも少しづつではあるが変ってきているはずである。唯平凡に日々を過すのではなくて、それらの事を振り返ってみて、日常の茶飯事的な事を文章として、又落書き風にでも書き記して置く習慣をつけるのは非常に意義ある事と思う。会報の扉橋等というのは、そんな風な長年なものであります。それを書き記しておいた過去のものもありたいね。それら書き記しておいた過去のものをひもといてみるのも又感概無量ですよ。それに凡合で一つ原稿を出して下さい。我々編集部一同心からお待ち致しております。

記
生活記録、軒場隨想 評論 コント 書評
詩 短歌 排句 マンガ
毎数自由一人何篇でも可
大切に毎月第二土曜日

—編集部—

☆「からつかぜ」会報の發行は是非かと云うためマで座談会を開く予定。じつくり考えた上での出席を望む。大体の予想としては、原稿の出の悪い人が非で、いつも頭において心掛けて原稿を書いて下さる人が是となるんじやないのが、両者相対立して活発なる意見の交換を期待している。日時は追ってお知らせします。

—編集部—